小児科

小児科部長　牧たか子

診療体制と患者構成

診療科スタッフ

絹笠　英世：小児科科長
多田　有美：小児科医長
穂坂　晶子：小児科医師
柴崎佳代子：並木診療所所長
藤田　光江：神経、精神、頭痛外来担当医師（非常勤）
中村　由里：発達外来担当医師（非常勤、筑波大学）
村上　　卓：循環器担当医師（非常勤、筑波大学）
土曜日担当医師：非常勤（筑波大学小児科後期研修医２名）
非常勤新生児オンコール：筑波大学新生児グループ医師４名
筑波大学初期研修医

指導医・専門医・認定医等

牧　たか子：日本小児科学会小児科専門医・指導医
絹笠　英世：日本小児科学会小児科専門医・小児神経専門医
多田　有美：日本小児科学会小児科専門医
穂坂　晶子：日本小児科学会小児科専門医

外来診療実績

外来受診者数		
一般外来		8318
専門外来	神経・精神・頭痛	1705
	発達	2427
	アレルギー	640
	循環器	100
健診	新生児	28
	１か月	438
	３か月	318
	その他	226
予防接種		1075

入院診療実績

小児科入院患者数		186
呼吸器		
	気管支炎・肺炎（RS以外）	20
	上気道炎	3
	気管支喘息	6
消化器		
	胃腸炎	12
	その他	3
感染症		
	RSウイルス	23
	COVID19	5
	その他発熱	8
神経・筋		
	熱性痙攣	2
	その他	2
腎・泌尿器		
	尿路感染症	12
	ネフローゼ症候群	1
	その他	3
アレルギー		
	アナフィラキシー	2
	食物アレルギー負荷試験	38
川崎病		14
血小板減少性紫斑病		1
皮膚科疾患		3
経口摂取不良・脱水症		11
新生児黄疸		10
新生児発熱		3
その他		4

新生児入院患者数		267
低出生体重児		14
巨大児		1
呼吸障害		32
気胸		3
無呼吸・周期性呼吸		5
感染疑い（母体発熱、羊水混濁など）		61
新生児仮死		14
低血糖		2
黄疸		28
心疾患		7
母体合併症		
	COVID19	4
	糖尿病（妊娠糖尿病を含む）	29
	甲状腺疾患	7
	その他	3
先天性疾患（心疾患以外）		5
帝王切開（合併症なし）		47
その他		5
出生数		392 （帝王切開　81）
正常新生児		125 （早産　6）

新生児搬送		12
呼吸器疾患		5
仮死		2
消化器疾患		4
代謝性疾患		1

搬送先		
	筑波大学附属病院	11
	西南医療センター	1
逆搬送	（筑波大学附属病院）	2
転入	（なないろレディース）	1

診療科紹介（概要）

2021年度は、常勤医師４名体制で、前年度と同様に非常勤医師にも外来及び新生児オンコールを担当していただいた。また、筑波大学の初期研修医（J2）を２か月毎に受け入れ（4-5月大久保耀生、6-7月寺前友樹、8-9月山本和司、10-11月富﨑鈴菜、12-1月近藤未来）、当院基幹型研修医も2-3月（J1　上條晴喜）、９月・12月（J2　内藤貴仁）に研修した。

1.外来

一般外来は、常勤医師のほかに前年度同様、並木診療所勤務の柴崎医師、土曜日は筑波大学小児科後期研修医（4-12月：七五三美智留医師、河原さくら医師、1-3月：古田萌医師、高橋正子医師）が交替で担当した。昨年度同様、COVID19対策として、発熱患者には電話で問診後、必要に応じて診察前にCOVID19およびその他の感染症迅速検査を施行する形式で対応した。

専門外来として、循環器（筑波大学：村上）、発達（絹笠、筑波大学：中村）、神経・精神・頭痛（藤田）、アレルギー外来（多田）を継続している。

一般小児科外来受診者数はCOVID19の影響で大きく減少した前年度よりは回復、専門外来受診者も増加した。

疾患の診療の他、予防接種および生後１か月、3-4か月、その他月齢の健診も行っている。生後２週間健診は助産師が担当し、必要に応じて小児科医師が診察している。今年度の２週間健診受診は、出生数392名中322名であった。

2.入院

1）小児

小児科入院病棟は成人との混合病棟であるが、プレイルームなど小児病棟としての設備があり、日勤帯は保育士も患児の安静度に応じて遊びなど生活面の援助を行っている。重症患者は、近隣の高次医療機関に搬送している。

今年度は、昨年度流行がなかったRSウイルス感染が流行したことで、昨年度より入院患者が増加した。

2）新生児

当院は、つくば県西地域における周産期救急医療協力病院に指定されており、何等かのリスクを伴う出産の割合も高く、出生後小児科管理となる新生児が多い。重症患者は、原則として筑波大学附属病院NICUに搬送している。今年度は、他院から１件新生児を受け入れた（筑波大学満床のため）。当院で出生した新生児の診察、帝王切開の立ち合いも小児科医師が行う。診療時間外はオンコール体制で対応しており、筑波大学小児科新生児グループの医師にもオンコール担当に加わって頂いている。

今年度は、当院産科でCOVID19感染妊婦の分娩を受け入れ、出生した新生児は当科で管理した。

診療する主な疾患

０歳（新生児を含む）から15歳（中学３年生）までの内科的疾患を対象とし、血液疾患、循環器疾患など専門的な診療が必要な場合は、近隣の高次医療機関に紹介している。慢性疾患患者の中には、15歳を過ぎても小児科通院を続けている患者もいる。

小児神経専門医がおり、神経、精神、発達外来を特徴としている。

アレルギー疾患の診療。食物アレルギーの負荷試験。

各種健診（乳幼児健診、保育所入所前健診等）、予防接種。

結核接触者健診や学校結核健診等の結核関連患者の診療。

COVID19感染小児の外来及び入院診療。

医療の質の自己評価

当院は市中の一般病院であり、呼吸器、消化器感染症など一般的な疾患を扱うことが多いが、特に専門性の高い小児神経、精神、発達、循環器の専門外来を開設することで、良質な医療を提供できていると考えている。